
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」（2020年度第3回研究会）

2021年3月27日(土曜日) 午前11時より午後17時半、28日(日曜日)午前9時半より午後13時、対面・オンライン開催

本共同研究課題の第3回目となる研究会では、3名のゲストを招き、チベット・ヒマラヤの牧畜に関する映像の上映と研究発表、全体討論を行った。

3月27日は、1958年に行われた西北ネパール・ドルポ地方の学術調査隊によるドキュメンタリー『秘境ヒマラヤ』の上映とそれに先立ち、森田剛光氏による「『秘境ヒマラヤ』— 西北ネパール学術探検隊（1958年）の映像記録」と題する、本ドキュメンタリーの背景情報や西北ネパール研究の概要説明、孤児作品利用に関する留意点などについて発表が行われた。それに続き、稲葉香氏から「西ネパール辺境に魅せられて」と題する、近年のドルポにおけるチベット系民族の暮らしや環境変化、渡航の様子について、写真と映像をまじえた報告がされた。全体討論では、50年代と現代の西北ネパール・ドルポ地方の牧畜やそれを取り巻く環境について質疑が行われた。

3月28日には、東北チベット・アムド地方の牧畜民の生活を映したドキュメンタリー『チベット牧畜民の一日』がまず上映された。その後、チョウピンピン氏により「チベット各地における糞の燃料利用の比較」と題する発表が行われた。西チベット、東北チベット、中央チベットの4地点における牧畜民の糞利用の調査にもとづき、燃料としての使用法に注目し、各地の牧畜の概況と糞の加工・燃料利用の事例が報告され、チベット人が高地に居住するために糞燃料が不可欠であったことが強調された。

打ち合わせでは来年度の研究会の開催予定や研究内容について議論を行った。

本課題が開始されてはじめての対面会議ということもあり、質疑、議論ともに活発に行われ、今後、課題を遂行していく上でも多くの示唆を得ることができた。会議室ではマスクを常時着用し、懇親会は行わないなど感染対策も徹底して行った。オンラインでの配信もほぼ問題なく行われた。